

「未来を拓く」令和4年年頭ご挨拶

鉄道・運輸機構 理事長代理 平野 邦彦

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍も小康を保ち、故郷でゆつくりとお過ごしになった方も多くおられたと思います。令和4年の年頭にあたり、今年の抱負と取り組みについて申し上げます。

私達、JR-TTのパーパス(存在意義)は、鉄道・内航海運のインフラを通じて、豊かな地域社会づくりに貢献することです。

昨年は、このパーパスの原点に立ち、足元を見つめ直し、自らの在り方を再構築し、再スタートする年でした。

九州・北陸新幹線新駅見学会に参加いただいた多くの方々から、新幹線に乗って遠い所へ行ってみたい、新しい駅舎に感動した、といった声が寄せられました。こういった皆様方の熱い思いにしっかりと応えてまいります。

検証委員会(※)より指摘いただいた点を踏まえ、発表した『鉄道・運輸機構改革プラン』を職員一丸となり、着実に取り組みを進めてまいります。

本年は、この改革プランの本格実施により、私達、JR-TTが目に見える形で変わった1年間にしたと思います。そのために、今までのやり方を深掘りし、変えていく「深化」と、新しい事へ挑戦し、前に進めていく「進化」の2つにチャレンジしてまいります。

具体的には、「DXを活用した業務プロセス改革」、「双方向コミュニケーションの実践」、「SDGsの取り組みによる環境負荷低減」、「海外高速鉄道プロジェクトの推進」などを積極的に行います。

本年は、鉄道開業150周年となる記念すべき年です。

九州新幹線(武雄温泉・長崎間)が秋に開業を迎え、また、相鉄・東急直通線建設工事が完成する大きな節目の年になります。

北陸新幹線、北海道新幹線については、沿線自治体・JRの皆様と連携し、着実に建設を進めてまいります。

また、新幹線技術を活かした海外高速鉄道プロジェクト、鉄道事業者への施設整備等の支援、JR北海道・JR四国・JR貨物への経営自立支援、そして環境負荷を低減し、船員の労働環境に資する船舶の建造推進等、皆様のさまざまなニーズに的確に対応し、またSDGsの達成にも貢献してまいります。

私達、JR-TTは、社会経済の大きな変化を見据え、皆様方の負託にお応えしていくために、自らを変え、前に踏み出し、未来を切り拓いていきます。

本年も、引き続き皆様方のご理解とご支援のほど、お願い申し上げます。

(※)国土交通省の北陸新幹線の工程・事業費に関する検証委員会